

博多駅効率化絶対に許しません！

2月7日の団体交渉にて、私たちは会社側に「博多駅ホーム主任廃止」を撤回するよう強く求めてきました。このとき、一人の交渉員が会社に向かって真っ先に質問したこと。

「私がいる乗務員職場では、博多駅のホーム主任がいなくなることを誰もが恐れている。安心して仕事が出来ないと言っている。これ以外の問題については考える余裕がない、とにかくホーム主任の廃止だけは止めて欲しいといった声しか上がっていない。理屈抜きで、こうした現場の心の叫びについて会社はどう思うのかを聞かせて欲しい。」

これに対する会社の回答は以下の通り。

「乗務員の方々が不安なのは、十分に分かる。会社としても独断で進めているわけではない。博多駅や乗務員職場とも入念にコミュニケーションを取った上で決めたこと。安全設備等、皆の不安を払拭するための努力は怠っていない。」

みなさん、不安は払拭されましたか？職場では、訓練等で当施策についての説明や意見を申す機会がありましたか？そもそも、真っ先に「コミュニケーション」を取るべき相手は、実際に運転扱いをする乗務員ではないのですか？

言葉の誤りも甚だしいが、「勝手に決めたこと」をトップダウンで一方的脅迫的に現場に突き付けるのは「コミュニケーション」ではない。むしろそれとは真逆、俗に言う「コミュ障」である。

この愚策を許すと、今後は安全が脅かされるだけに止まりません。例えば、「安全創造取組発表会」「サービス改善委員会」といった茶番劇は、コスト削減により生じる安全やサービス上の問題を社員の「意識」をもって無料で解決しようとする会社目線の狂った図式そのものですが、この先、社員にツケを回すこうした動きがより顕著になり、「最悪の結果」も予想されます。いい加減怒った方がいい。

「この世は危険なところだ。悪いことをする人がいるためではなく、それを見ながら何もしない人がいるためだ。」(アルベルト・アインシュタイン)

国労は、最後まで「博多駅効率化」に反対し続けます！